

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値
052060_男鹿市	③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	共働き家庭の増加により、学校放課後に留守家庭で過ごす子どもが多くなっている。本市では、放課後の安全安心な居場所として、地域の方の参入による多様な体験活動等を行う放課後子ども教室を実施している。少子化の影響で市内に6校あった小学校が2校閉校し、地域と学校の関係が希薄になっていることから、学校と地域の連携・協働を推進していく必要がある。	地域学校協働活動推進員が学校と地域を繋ぐ橋渡し役として、様々な地域人材、資源を子どもたちと関わらせている。	<p>地域学校協働活動推進員や、公民館・コミュニティセンターが協力し、コミュニティスクールとの連携強化を図りながら、地域住民や地域団体と学校を繋いでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統括コーディネーターの新規配置による、地域と学校をつなぐ取組強化 ・地域団体と放課後子ども教室の共催イベントの開催。 ・学校運営協議会において、地域学校協働活動への呼びかけを行い、新たな地域人材・資源を学校と繋ぐ。 	放課後子ども教室における地域の方の生涯学習スキルの活用機会を増やす。	地域人材の人数	213	人	160
052061_男鹿市	①学校運営上の課題	教職員の時間外勤務の是正	教職員の働き方改革の必要性が叫ばれているなか、少子化による複式学級の発生などにより、さらに教職員の負担が増加している。学校行事の運営や授業補助に地域の方が関わるなど、働き方改革への支援が必要である。	地域の子育て経験者を活用し、PTAや学級懇談時に学校教室を使用して児童の見守り活動を行っている。	<p>学校行事等への地域の方の参画による教職員の負担軽減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校授業補助(ミシン、郷土料理) ・クラブ活動への参画(昔遊び、ニュースポーツ) ・学校行事運営への参画(PTA時の子ども見守り) 	地域の方の学校行事等への参画を増やすとともに生涯学習スキルの活用機会を増やす。	地域人材の人数	64	人	116